

公開講演会

Emotions in Early Christianity.

Methodological issues and issues of content as exemplified by *ὄξυκολία* in the Shepherd of Hermas

初期キリスト教における感情

『ヘルマスの牧者』における *ὄξυκολία* [憤怒] を例にとった方法論的および内容的諸問題

ὄξυκολία (オクシュコリアー、「憤怒」) の概念は、『ヘルマスの牧者』(AD 2世紀前半) で初めて現れ、道徳倫理的な人間解釈のための主導概念となる。「憤怒」は、有限の許容量をもつ器として表象された人間の内部に外部から侵入する。同時に、多様な感情は人間の内面にも位置づけられる。それらは深部で発生し、「心」という隠喩で示される人格の中心にまで昇ってくる。したがって『ヘルマスの牧者』において感情は、明瞭に人間外部に起源があると同時に、内部にも存在しうる。そのさい人間は、二つの対称的な霊の中間に立ち、両方の霊の存在が人が立っている決断状況を鮮明にする。人間は、どちらの霊に従うかを自ら選ぶ自由がある。感情の力動的な自律性が、神話的形姿の中に具現化される。キリスト者が洗礼によって、悪しき霊からすでに一度決別した後に、今もう一度、悔い改めのための第二のチャンスが提示される。これがヘルマスのメッセージであり、それを『ヘルマスの牧者』は黙示文書の様式で伝達する。『ヘルマスの牧者』の読解が示すのは、感情それ自体でなく、解釈された感情のみが存在することである。

講師：Petra von Gemünden (ペトラ・フォン・ゲミュンデン)

ドイツ国ノイエンテッテルスアウ、ハイデルベルク、フランス国モンペリエ、ドイツ国エアランゲンにてプロテスタント神学を学び、1989年にハイデルベルク大学神学部にて博士号を取得。1992-1994年にベーテル神学大学助手を勤めた後、1994-2002年にスイス国ジュネーブ大学神学部新約聖書学正教授、2002年から現在までドイツ国アウグスブルク大学の聖書神学正教授。最初期キリスト教および古代地中海世界の諸宗教におけるイメージ言語および感情に関する諸問題を考究した研究で広く知られる。主著に、*Vegetationsmetaphorik im Neuen Testament und seiner Umwelt. Eine Bildfelduntersuchung*, NTOA 18, Freiburg/CH, Göttingen 1993; *Affekt und Glaube. Studien zur historischen Psychologie des Frühjudentums und Urchristentums*, NTOA 73, Göttingen 2009、ほか共著・論文多数。



日時：2018年10月19日(金) 18:30～20:30

場所：立教大学池袋キャンパス 12号館地下1階第3・4会議室

事前申込不要・参加費無料

※講演は英語で行なわれますが、講演原稿の日本語訳を会場で配布します

主催：立教大学文学部キリスト教学科/共催：日本聖書学研究所

お問い合わせ：学部事務1課キリスト教学科担当 (03-3985-2521)

キリスト教学研究科教育研究コーディネーター有住 (03-3985-4779)